

- 社会科 (歴史的分野)
- 単元名 第一次世界大戦後の世界と日本 (2時間扱い)
- ねらい
  - ・ 第一次世界大戦後の国際協調と民族独立の動きは、日本にどのような影響を与えたかを理解する。
  - ・ 国際協調に尽力した広島県出身として初の内閣総理大臣となった加藤友三郎の働きについて理解する。

### ○国際協調と民族独立の動き

1  
時  
間  
目

#### 【主な学習活動】

- ・ パリ講和会議の内容を調べ、国際平和を守るための努力がなされたことを確認する。
- ・ 民族自決の考えによって、各国でおこった独立運動を調べる。

#### 【主な発問】

- ・ パリ講和会議で決められたことを発表してみよう。
- ・ どのような独立運動がおこったのか、表に整理してみよう。

#### 【指導上の留意事項】

- ・ ベルサイユ条約では、戦勝国側が敗戦国に過酷な負担を求める結果になったことや、平和への動きが不十分であったことを理解させる。
- ・ 東ヨーロッパの独立は認められたものの、アジア諸国の独立は認められなかったことを理解させる。

### ○国際協調のために決断した加藤友三郎

「郷土ひろしまの歴史Ⅱ」P. 18～23 を活用

2  
時  
間  
目

#### 【主な学習活動】

- ・ 加藤友三郎について、調べる。
- ・ 加藤友三郎の軍備縮小の動きを確認する。

#### 【主な発問】

- ・ ワシントン会議では、どのようなことが決められたのだろうか。
- ・ 加藤友三郎は、次々と日本が戦争に勝利し、軍備拡張の聲が高まる中、なぜ、軍備縮小に力を尽くしたのだろうか。

#### 【指導上の留意事項】

- ・ 国際情勢と国益を第一に考え、強い反対があったにもかかわらず軍縮を決断したことを考えさせ、自分の言葉でまとめさせる。



- 広島県出身として初の内閣総理大臣となった加藤友三郎は、軍備縮小に尽力したんだ。
- 第一次世界大戦ごろの広島県のことについて、調べてみよう。